

令和2年度 東久留米市立第六小学校 グランドデザイン

第六小の教育のねらい 「次代に生きる子供を育てる」
【学校教育目標】 ◎考える子 助け合う子 元気な子

～今後の社会において求められる力～
○何が重要であるかを主体的に判断できること
○多様な人々と協働することができること
○新たな問題の発見・解決につなげることができること

子供の感性を磨く
自分自身の感性を磨く

★教職員の強み★

- 「子供にとってどうか」が判断基準
- 団結力
- 率先垂範

【期待する教師・大人像】

- 1 子供の心を敏感に察しようとする。
- 2 子供を柔軟な見方で見ようとする。
- 3 子供と焦らず接しようとする。
- 4 子供に期待をもって関わろうとする。
- 5 子供を素直に見ようとする。
- 6 子供に温かい関心を持とうとする。
- 7 子供と共に歩もうとする。
- 8 子供一人一人の身になって考えようとする。
- 9 子供の良いモデルになろうとする。
- 10 子供に時として厳しく接しようとする。

【目指す学校像】『子供の幸せを育む学校～今を輝き、明日の笑顔を創る～』

- 子供が安心して通い、楽しく生き生きと過ごし、自分のよさが発揮できる学校
 - 子供が主体的に学び、知・徳・体の調和の取れた人格を育てる学校
 - 家庭・地域と目標を共有し、共に子供を育てる学校
- 合言葉は 「笑顔かがやく六小の子 みんなで育てる六小の子」

★子供たちの強み★

- 明るく素直
- 生活規律が身に付いている
- 決められたことを実行できる。

【目指す子供像】

人間味あふれ、自ら考え、自ら学ぶ子供

分かる、学び続ける喜びを

- 学習内容の確実な定着
「分かる、できる、楽しい授業、使える・つくる能力を育む授業」
・「授業改善推進プラン」の活用
・習熟度別指導による個に応じた指導の充実
・1単位時間の弾力的運用による学習内容の定着(朝学習と1時間目の連続授業の実施)
- 主体的で・対話的で深い学びを目指す授業改善と評価
・子供の意欲を喚起、持続させる授業の構築
・各教科の特性に応じた体験的な学習・問題解決的な学習の実施
・各教科等での言語活動の充実
・自分の考えをもち、双方向性の話し合いのある授業の工夫
・効果的で効率的な指導を目指したカリキュラムマネジメントの実施
・校内研究での研究成果の継続・日常化
- 家庭学習の充実と習慣化
・教師の励ましと一人一人の実態に応じた指導(学年×10+10分の実施)
・「六小 自主学習の手引き」の配付と家庭と連携した実践

たくましく生きる喜びを

- 危機対応能力の向上「自分の命は自分で守る」
・危険予測能力と危機回避能力の育成
・避難訓練等の家庭と連携した実践
・安全対策の徹底による学校内外での事故防止
- よりよい生活習慣の育成
・「生活リズムカレンダー」の活用と家庭と連携した実践
- 健康な体の育成
・体力テストの結果に基づき、年間を通してすすんで体力向上に取り組むための活動の工夫
・朝、中休み、昼休みの外遊びの奨励
・4×4の基本的枠組を意識してオリピック・パラリンピック教育の推進
・保健指導による健康増進の習慣の育成
・「ペロリンピック」で給食指導と連動した食育の推進・地域人材や環境を活用した魅力ある授業づくり

ともに生きる喜びを

- 人権教育、道徳教育の推進「信頼関係づくり」
・自尊感情や自己肯定感を高められるよう、子供一人一人が認められ生かされる活動の場や機会の設定、互いのよさを認め合う学級づくり
- いじめ防止
・自他の生命を尊重し、いじめや暴力、差別や偏見のない学校づくり
・「いじめを許さない」意識をもち、いじめ根絶に向け主体的に行動する児童の育成
・いじめ対策防止委員会による組織的な対応教育相談的手法によるいじめや虐待、問題行動の早期発見、対応
・保護者・地域への情報発信と協力体制の構築
- 特別活動の充実
・話し合い活動を通して、主体的によりよい生活を目指す能力と態度の育成
・異年齢集団活動による社会性と連帯感の育成
- 特別支援教育の充実(インクルーシブ教育の推進)
・全校で、分かりやすい板書、学習のルールへの掲示、ICT活用等、子供一人一人の教育的ニーズに応じた配慮や支援、安心して学べる学級づくり
・全校で、障害や特別支援教育に対する理解を深め、個に応じた支援の充実、「共に生きる」仲間としての意識の育成
- 生活指導の充実
・組織的、計画的な生活指導の実施、
・「六小6つの『あ』」で、基本的な生活習慣の定着
・学習規律やルールを全校で共通理解、共通指導
・生活指導全体会や夕会で情報共有を図る
・特支コーディネーター、SC、外部機関と連携したいじめ、不登校、問題行動への対応

次代につなぐ学びの創造

- 校内研究(道徳科)「考え・議論する道徳」
・問題解決的な学習、体験的な学習等を学習展開に位置付けた授業実践
・個々の学習状況及び道徳性に関する成長の様子を見取り、認め励まし根拠に基づいた評価の実施
- 総合的な学習の時間
・「環境・福祉・国際理解・食育」を中心に、体験的・探究的な学習の実施
・地域の特色や人材を活用した教育活動の充実
- キャリア教育(キャリアパスポートの活用)
・自治能力・社会貢献の精神、社会性の向上を図る場面の設定
・自らの生き方や職業について考える場面の設定
- プログラミング教育
・ICT機器を活用したプログラミング的思考の育成
・問題に主体的に取り組む態度、ICT機器等を活用してよりよい社会を築いていこうとする態度の育成

効果的な組織運営

- 教員としての資質向上
・校内研究の充実
・OJTの推進、OFFJTによる授業力、指導力の向上
・ライフワークバランスを推進し、感性を磨き、教育活動へ反映
- 組織的な学校運営
・意思決定システムの遵守と報告・連絡・相談の徹底
・分掌、学年会の充実(共通理解・実践、協力)
- 持続可能な教育活動のための校務改善
・PDCAの励行による校務の見直しと改善
・勤務時間を意識した校務の効率化、省力化
・職員、分掌による創意工夫と改善案の提示
- 服務規律の徹底
・法令等の遵守(個人情報管理、体罰等)
- 保護者・地域との連携
・積極的な情報発信による理解・啓発の促進と協働体制の構築(各種便り、HP、学校公開、保護者会)

中期経営目標(令和2年度から令和4年度)

- ・インクルーシブ教育の推進
- ・ユニバーサルデザインの授業を積極的に導入し児童一人一人のよさを生かし伸ばす。